

- サービスだけで全ての問題が解決するわけではありません。
- 離れて暮らす家族では、日々の困りごとに対応するのは難しいものです。
- 今は色んな活動に参加できていても、将来、自動車や自転車に乗れなくなると、参加することが徐々に難しくなってきます。
- 困ったからといっても、よく知らない人に「助けて」とは言い難いものです。
- 身近に困っている人がいても、よく知らなければ、手助けしづらいものです。

元気な内から身近に知り合いをつくっておきませんか？

地域福祉協議会では、
身近な所で人が知り合うきっかけ作りの場
「ふれあいいいききサロン」づくり
を応援しています。

少子高齢化が急速に進む今日、団塊の世代の方すべてが後期高齢者になる2025年には、全国で約38万人分の介護人材が不足すると予想されています。

これに伴い、要支援の方に対するサービスの仕組みが変わるなど、介護保険制度の見直しも進められてきており、今後は、制度だけに頼らない「地域の中での支え合い」が非常に重要となってくると言われています。

しかし、ベッドタウンとして発展してきた岩出市では、市外から転入してこられた方が多く、転入後や退職後も上手くきっかけを見つけられず、周囲との繋がりを築けていないといった方も少なくありません。さらに身近に暮らしながらも、「誰がどんなことで困っているのか」が互いに見え難いといった地域も多くなっています。逆に言うとこれは、自身の将来像も見え難い状況にあるとも言えます。

こうしたことから、地域福祉協議会では、この度、岩出市にお住まいのご高齢の方々に、「日々の生活の中でどういったことでお困りなのか」を聞き取りさせていただきました。

ぜひご一読いただき、これからも住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために「高齢期を迎えるにあたっての準備」や「自分にもできる親切や思いやり」を考えるきっかけにいただければ幸いです。

岩出市にお住まいのみなさんに聞いた

身近な困りごと集



作成：岩出地区地域福祉協議会 山崎地区地域福祉協議会 上岩出地区地域福祉協議会

監修：和歌山大学経済学部 准教授 金川めぐみ

発行・お問い合わせ：岩出市社会福祉協議会 ☎ 0736-63-3246 (代)